

## P11b 広視野グリズム分光撮像装置 (WFGS2) による星形成領域の観測

杉谷光司、森田淳子(名古屋市大)、上原麻里子、長嶋千恵、佐藤修二(名古屋大理)、渡辺誠(国立天文台ハワイ)、WFGS2 チーム

私たちは T タウリ型星の研究を主な目的として、ハワイ大学 2.2m 望遠鏡用に広視野のグリズム分光撮像装置 (WFGS2) の開発を行ってきた。2003 年の 11 月にファーストライト観測を行ったものの稀にみる悪天候のため性能評価のための最小限のデータしか取得することができなかったが、2004 年 11 月の 2 回目の観測で初めて scientific に意味のあるデータを取得することができた。

観測は、2004 年 11 月 8 日から 11 月 12 日にかけて行った。主な観測領域は、WFGS2 の輝線天体 (輝線星) のサーベイ能力の比較・検証を行うため、他の観測装置で比較的深くサーベイされている星形成領域 IC348、NGC2264、

Ori など数領域を選んだ。また、まだ輝線星がサーベイされていない NGC281 などの星形成領域も数領域観測した。WFGS2 は、広い視野におけるスリットレス分光撮像を特徴にしているが、スリットレス分光における波長および flux キャリブレーション方法などはまだ確立されていない。このため、これらを確認するためのレプリカグリズムによる低分散・VPH による中分散スリットレス分光撮像および撮像観測を行った。

現在、キャリブレーション方法の確立も含めてデータ解析中であるが、他のサーベイ装置に比べて有意により深くより多数の輝線天体を検出できることを確認した。講演では、他の装置による観測と比較し新たに検出した T タウリ型星候補天体について報告する。